

Ad26.COV2.Sワクチン接種後の血小板減少症を伴う大脳静脈洞血栓症に関する米国の症例報告(2021年3月2日～4月21日)

[US Case Reports of Cerebral Venous Sinus Thrombosis with Thrombocytopenia after Ad26.COV2.S Vaccination, March 2 to April 21, 2021](#)

See I, Su JR, Lale A, et al.

[JAMA. 2021 Jun 22;325(24):2448-2456]-peer reviewed(査読済み)

(抜粋・要約)

◇背景

チンパンジーアデノウイルスベクターを用いたChAdOx1 nCoV-19ワクチン(オックスフォード大学/アストラゼネカ社)の接種後に、まれで重篤な疾患である血小板減少症を伴う大脳静脈洞血栓症(CVST)が発生したと欧州から報告されている。自己免疫性ヘパリン起因性血小板減少症(HIT)に類似した発生機序が提唱されている。米国では、ヒトのアデノウイルスベクターを用いたAd26.COV2.S COVID-19ワクチン(ヤンセン社/ジョンソン・エンド・ジョンソン社)が、2021年2月27日に緊急使用許可(EUA)を取得した。2021年4月12日までに、米国内でAd26.COV2.Sワクチンが約700万回接種され、接種者の中に血小板減少症を伴うCVSTが6例特定されたため、2021年4月13日に本ワクチンの接種は米国内で一旦停止された。本稿では、Ad26.COV2.Sワクチン接種後に発生した血小板減少症を伴うCVSTの症例報告を記載する。

◇方法

◇試験デザインおよび参加者

EUA下でのAd26.COV2.Sワクチン接種後にCVSTおよび血小板減少症を発症し、2021年3月2日～4月21日にワクチン有害事象報告システム(VAERS^A)に報告があった米国の患者12人の症例集積(2021年4月21日までの追跡調査が報告されている)。

◇主要評価項目と評価指標

VAERSへの報告、診療記録のレビュー、および臨床医との協議から得られたCVST診断後の臨床経過、画像診断、臨床検査、および転帰。

◇結果

患者の年齢は18歳～60歳未満であった。全員が白人女性で、11の州から報告されていた。患者7人は、肥満(6人)、甲状腺機能低下症(1人)、経口避妊薬の使用(1人)など、1つ以上のCVSTのリスク因子を有していたが、ヘパリン投与歴の記録を有する患者はいなかった。Ad26.COV2.Sを接種してから発症までの期間は6～15日であった。11人は最初に頭痛を呈した。1人は最初に背部痛、その後頭痛を呈した。CVSTを発症した12人のうち、7人は脳内出血を併発し、8人はCVST以外の血栓症を発現した。CVSTと診断された後、6人の患者はまずヘパリン治療を受けた。血小板数の最低値は $9 \times 10^3/\mu\text{L}$ ～ $127 \times 10^3/\mu\text{L}$ であった。ELISA法によるヘパリン/血小板第4因子HIT抗体検査で、患者11人全員が陽性であった。患者全員が入院し、うち10人は集

^A Vaccine Adverse Event Reporting System

中治療室 (ICU) に入院した。2021年4月21日時点での転帰は、3人が死亡、3人がICUでの治療継続、2人がICU以外での入院継続、4人が退院帰宅であった。

◇結論と関連性

Ad26.COVS.2.S ワクチン接種後に血小板減少症を伴う CVST を発症した米国での最初の 12 例は、重篤な事象であった。この症例集積は、米国内での Ad26.COVS.2.S ワクチン接種再開時の診療ガイダンスに有用な情報を提供するとともに、Ad26.COVS.2.S ワクチンと血小板減少症を伴う CVST との潜在的な関連についての調査にも役立つと考えられる。